

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚竝日本ノ利益保護依頼関係一件 (一) 三〇九 一一一

I am,  
My dear Colleague,

Sincerely yours,  
signed: James W. Gerard.

An

Herrn Geheimrat v. Achenbach,  
Hochwohlgeboren.

Berlin. W.

Mr. M. Funakoshi,

Imperial Japanese Chargé d'Affaires,  
Berlin.

第二十三号

第二十二号

Abschrift.

Berlin, den August 1914.

Sehr geehrter Herr Geheimrat:

Hierdurch gestatte ich mir Ihnen mitzuteilen, dass ich mit den übrigen Mitgliedern der Kaiserlichen Botschaft heute Berlin verlasse, um in die Heimat zurückzukehren, und dass die jeweilig fälligen Raten der Miete für das Botschaftsgebäude Ihnen bis auf Weiteres seitens der hiesigen Botschaft der Vereinigten Staaten von Amerika zugehen werden.

Mit vorzüglicher Hochachtung  
gez. Funakoshi.

Graf Tsuneha Sano, Fregattenkapitän, Marine-Attaché,  
Frau Gräfin Sano,  
M. Usami, Diener des Geschäftsträgers.

II. Kaiserlich Japanisches Generalkonsulat:

T. Okuda, Generalkonsul,  
Frau T. Okuda,  
Meigo Okuda, Sohn der Vorgenannten,  
Fräulein Elsa Nagai, Hausdame bei Frau Okuda,

M. Tani, Vizekonsul,  
T. Yuge, Kanzler,  
Y. Nishi, Diener,  
K. Kimura, Kindermädchen.

三〇八 八月十日 在白国山中臨時代理公使  
(電報)  
白国政府ト同行承認ノ件

第一五号

貴電第117号白国政府ト同行ノ件承認

三〇九 八月十八日 在白国山中臨時代理公使  
(電報)  
白国政府ト共ニ「アンガルベ」ニ移転済ノ件

第一六一號

一 在白国及仏本国本邦公館ノ移動及本邦人ノ引揚  
三〇七 八月七日 在白国山中臨時代理公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)  
白国政府「アンガルベ」  
行承認方稟請ノ件  
第二十七号

八月六日夜外交團会議ヲ開キ政府ニシテ「アンガルベ」

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚竝日本ノ利益保護依頼関係一件 (二) 三〇九 三〇九 三〇九 三〇九

I. Kaiserlich Japanese Botschaft:  
Baron M. Funakoshi, Botschaftsrat, Geschäftsträger a. i.  
N. Sakunobe, Botschaftssekreter 2 Klasse,  
N. Matsunaga, Botschaftssekreter 3 Klasse,  
Frau Matsunaga,  
M. Shigemitsu, Attaché,  
M. Kitada, Attaché,  
T. Hase, Botschaftskanzler,  
Oberst M. Kawamura, Militär-Attaché,  
Hauptmann Furusho, Gehilfe des Militär-Attachés,

Kaiserlich Japanese Botschaft.  
Verzeichnis des Personals der Kaiserlich  
Japanischen Botschaft zu Berlin, sowie des Personals des Kaiserlich Japanischen Generalkonsulats  
in Hamburg.

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚茲日本ノ利益保護依頼関係一件 (1) 三一〇 三一一 三一二 三三〇

三一〇 八月二十六日 在白國山中臨時代理公使宛  
(電報)  
加藤外務大臣ヨリ  
貴電第三三号ニ閑シ木村書記官ハ其ノ後無事貴地ニ引揚ケ  
タリヤ又公使館什器書類等ノ保管ニ閑シテハ如何処分シタ  
ルヤ電報アレ

木村書記官並公使館什器書類等ニ付問合ノ件  
第二七号

頗スル積リニ取極メ置ケリ資金モ十分残シ置ケリ唯一ノ在  
留者田中鉄道院參事ハ公使館ニ入り木村ト行動ヲ共ニスル  
答

貴電第三三号ニ閑シ木村書記官ハ其ノ後無事貴地ニ引揚ケ  
タリヤ又公使館什器書類等ノ保管ニ閑シテハ如何処分シタ  
ルヤ電報アレ

木村書記官並公使館什器書類等ニ付問合ノ件  
第二七号

貴電第三三号ニ閑シ木村書記官ハ其ノ後無事貴地ニ引揚ケ  
タリヤ又公使館什器書類等ノ保管ニ閑シテハ如何処分シタ  
ルヤ電報アレ

木村書記官並公使館什器書類等ニ付回電ノ件  
第三八号

三一一 八月二十八日 在白國山中臨時代理公使ヨリ  
加藤外務大臣宛  
(電報)

木村書記官並公使館什器書類等ニ付回電ノ件  
第三八号  
貴電第二七号当地「ブラッセル」間通信交通絶対ニ断絶從  
ツテ木村ノ近況ヲ知ル道ナキモ「ブラッセル」ハ寧ロ安靜  
ナル模様ナルニ付木村ノ身上ニモ別ニ懸念ナキコトト信ス  
第三二号ノ通機密及重要書類ハ本官悉皆之ヲ携帶シタリ若  
シ木村カ退去ヲ命セラルルカ如キ場合ニハ其裁量ニテ残留  
文書ハ焼却スルカ又ハ公使館什器ト共ニ中立国公使館ニ依

木村書記官「アンヴェルス」ヘ引揚手配方電詢  
ノ件  
第二九号  
貴電第三八号ニ閑シ目下「ブラッセル」ニ於ケル状態ニ顧  
ミ木村ノ身上ニ何時如何ナル変事起ラサルヤモ保シ難キニ  
付何等カノ方法ヲ案出セラレ木村ヲシテ一日モ速ニ文書其  
他ノ始末ヲ為シ殘留者帶同貴地ニ引揚ケシムル様取計ハレ  
タシ

木村書記官「アンヴェルス」ヘ引揚手配ニ閑シ  
回電ノ件  
第四一号

貴電第二九号在「ブラッセル」米国公使館書記官ハ米独撲  
三国ノ公用ヲ帶ヒ独軍ノ許諾ヲ得一度当地ニ來リタリトノ  
由ニ付不取敢米國領事ニ面会シ若シ再来ノ時ハ木村ニ貴電  
ノ趣伝言方ヲ依頼シ且ソ幣原公使ニ電報ン在蘭米國公使ニ  
依頼シ在独在白米國大公使ヲシテ木村ニ貴命伝達方尽力ヲ  
請ヒタリ結果分リ次第電報スヘシ「ブラッセル」ハ静穩ノ  
趣ナル上米國公使ノ外西班牙、葡萄牙、支那外二三ノ公使  
居残リ其他ノ中立國ハ皆書記官ヲ残シ置ケルニ付木村ノ身  
上ニモ懸念ナカルヘシ

三一三 八月三十日 在白國山中臨時代理公使ヨリ  
加藤外務大臣宛  
(電報)  
木村書記官「アンヴェルス」ヘ引揚手配ニ閑シ

獨逸軍突進シ今ヤ巴里ヲ去ル約十八里ノ Compiègne ニ於  
テ激戦中ナリト、仏国政府巴里ヲ去ルニ至ラハ少クトモ独  
逸國ノ敵國代表者ハ大統領ニ付キ移転スヘク其場合ニ至リ  
若シ仏国駐劄米国大使ニシテ巴里ニ止ラハ帝國ノ利益及臣  
民ノ保護ヲ同大使ニ嘱托スルノ許可ヲ乞フ仏国駐劄英國大  
使モ同様ノ許可ヲ電請シツツアリ我在留民ハ出来得ル限り  
里昂ヘ去ランムヘン若シ電訓問ニ合ハサル時ハ仏国駐劄米  
国大使ニ仏国駐劄米国大使去レハ臨機居残ル外国代表者中  
可然者ニ託スヘキニ付御含ミアリタシ

三一五 八月三十一日 在米國珍田大臣使宛  
(電報)  
在パリ我利益保護ヲ米国政府ニ依頼方電訓ノ件  
第三二八号

貴電第三〇五号(石井大使第六七号ノ転電)ニ閑シ万一ノ  
場合ニハ石井大使ヨリ在巴里米國大使ニ右依託申出ツヘキ  
ニ付其ノ節ハ米國大使ニ於テ引受ケ吳ルル様責任國政府ニ  
御交渉相成タシ

第六七号

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚茲日本ノ利益保護依頼関係一件 (1) 三一三 三一四 三一五 三三一

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚茲日本ノ利益保護依頼關係一件 (一) 三一六 三一七 三一八 三三二

三一六 八月三十一日 在米國珍田大臣（ヨリ）  
加藤外務大臣宛（電報）

在パリ我利益保護米國政府承諾ノ旨石井大使へ

通告ノ件

第三〇七号

外務大臣宛貴電第六七号ニ閔シ大臣ヨリ貴電御上申ノ通り

米国政府へ交渉方八月三十一日回訓ニ接シタルニ付同日國務長官ヲ往訪依頼申出タル處同長官ハ本使ニ向ヒ駐仏米國

大使ヨリノ電報ニ依レハ駐仏米國大使モ仏米國政府ト共ニ移

転スヘキヤモ計リ難キモ右ノ場合ト雖モ後ニ代理者ヲ留メ

置クヘキニ付右代理者ヲシテ日本國大使館及日本國利益保護方取計ハシムヘキ旨諸シ其旨直ニ駐仏米國大使ヘ電報シ

タリ尚國務長官ハ在巴里日本人ノ一人ニテモ巴里外ニ退去スルコトヲ希望スル旨述ヘタルニ付閣下ハ右ノ趣旨ヲ以テ

尽力中ナル旨答ヘ置ケリ

三一七 八月三十一日 在白國山中臨時代理公使（ヨリ）  
加藤外務大臣宛（電報）

木村書記官トノ通信連絡ニ閔スル件

第四四号

ノコトナリアルニ於テハ同公使ヲ経テ木村ニ対シ速ニ後始末ヲ為シ残留者帶同「アンヴェルス」ヘ引揚タル様伝達方御依頼アリタシ

三一九 九月四日 在米國珍田大臣（ヨリ）  
加藤外務大臣宛（電報）

木村書記官「アンヴェルス」ヘ引揚命令伝達方

第三一二号

九月三日國務長官ニ面会ノ節貴電第二三三二号ノ件依頼申出タル處同長官ハ在白米國公使ヲ經テ木村ニ右ノ次第伝達方取計フヘキ旨承諾シタリ

三一〇 九月七日 加藤外務大臣（ヨリ）  
在英國井上大臣宛（電報）

在白國山中臨時代理公使ノ同國引揚ニ閔シ電訓

ノ件

第一九八号  
在「アントワープ」駐白山中代理公使へ

第三〇〇号

時局ニ付白耳義ニ對スル帝國ノ地位ハ英仏等ト異ナルヲ以

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚茲日本ノ利益保護依頼關係一件 (二) 三一九 三二〇 三二一 三三三

往電第四一号幣原公使ヨリ米公使ニ協議シタルニ同公使ニ於テモ目下「ブルッセル」ト通信連絡ノ途ナク在独米大使ヲ經由スルモ到底其目的ヲ達スルノ望ナシトノ事ナリ然シ

尚米國政府ト在白米公使トノ間ニハ何等連絡ハナキヤト思ハル節モアルニ付華盛頓ヘ御協議アリテハ如何ト思考ス

三一八 九月三日 在米國珍田大臣（ヨリ）  
加藤外務大臣宛（電報）

木村書記官「アンヴェルス」ヘ引揚命令伝達方

米國政府ニ依頼スル様電訓ノ件

第二三三号

在白山中代理公使森書記生ハ「アンヴェルス」ニ引揚ケ公使館ニハ木村一人残留シ居ル處「ブルッセル」ノ現状ニ顧ミ一日モ速ニ「アンヴェルス」ヘ引揚ケシムル様取計方山中ヘ訓令シタルモ各地ヨリ「ブルッセル」トノ通信交通断絶シ木村ニ其趣ヲ伝フルノ途ナク在蘭在独米國大公使ヲ経由スルモ到底其目的ヲ達スル望ナシトノ事ナリ就テハ貴官ハ國務卿ニ対シ米國政府ト在白米國公使トノ間ニ尚連絡（山中來電ニ拠レハ尚何等カ連絡アリト思ハル節アリト

テ重大ナル危險アリトノ御見込ナルニ於テハ貴官ノ裁量ニ依リ貴館員及領事館員ヲ率ヰ海牙又ハ倫敦ヘ便宜引揚ケラルルモ差支ナシ但シ引揚前木村及田中ノ引揚ニ付出来得ル限りノ措置ヲ講セラルヘシ

三二一 九月十二日 加藤外務大臣（ヨリ）  
在米國珍田大臣宛（電報）

在白國本邦人及日本ノ利益保護茲木村書記官ヘ  
引揚命令伝達ニ閔シ米國政府ニ依頼方電訓ノ件

第二四〇号

往電第二三三二号ニ閔シ其後山中代理公使ノ來電ニ依レハ在「ブルッセル」木村ノ身上ニハ尚何等異変ナキ趣ナルカ此際万ノ一為兎ニ角一応同地在留日本人（目下三人トナリタリト云フ）及我カ利益ノ保護ヲ米國政府ニ依頼シ置ク方得策ト認メラルニ付右可然同政府ノ好意ニ訴ヘラレタシ尚其機會ニ於テ在白同國公使ヲ通シテ木村ニ対シ最初ノ機会ニ於テ残留者帶同倫敦又ハ適當ノ地ヘ引揚タル様伝達方併而同政府ニ御依頼アリタシ

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚竝日本ノ利益保護依頼関係一件 (II) III-III III-IV

三三四

III-III 九月十五日 在米國珍田大使(ヨリ) 加藤外務大臣宛(電報)

在白本国邦人及日本ノ利益保護並木村書記官へ

引揚命令伝達方米國政府承諾ノ件

第三二一號

貴電第二四〇号ニ閑シ九月十四日國務長官ニ依頼申入レタル處同官ハ快諾直チニ在白耳義國公使ニ発電シ尚金員缺乏ノ場合ニハ米國公使ニ於テ立替置クヘキ様併セテ訓令セリ

III-III 九月十七日 在仏國石井大使(ヨリ) 加藤外務大臣宛

在仏國我大使館ボルドー移転ノ経過ニ閑シ報告

ノ件

(十一月一日接受)

仏國政府移転ノ結果帝國大使館モ亦本月三日当「ボルドー」市ニ移転スルコト相成候儀ハ其節電報ヲ以テ及上申候通ニ有之候處右大使館移転前後ノ状況左ニ及報告候間御査閱相成度候

客月二十二、三日ノ交独逸侵入軍撃退ノ目的ヲ以テ白耳義

ヒ八月下旬迄ニ巴里ヲ去リタル者約二十名許有之候尤モ巴里避難民無慮何十万ヲ算スル際ノコト故乗車券ヲ入手スルニ四、五日ヲ要スル事情ニ有之候由ニ付貴電第三四号御訓示ニ対シ九月一日往電七〇号(不着)ヲ以テ右ノ趣上申致置候

右ノ通一方在留本邦人退去方取計ト同時ニ他方大使館移転ニ必要ナル諸般ノ準備ヲ急ギ居候處敵軍ハ益々巴里ニ接近スルモノト見エ八月三十日來日トシテ独逸飛行機ヲ巴里ノ中空ニ見サルハナキノ情況ニ有之仏國政府ハ愈々九月二日ヲ以テ「ボルドー」移転ノコトニ決シ外交團ノ為同日午後十時五十分発ノ特別列車ヲ用意シタル趣通告有之候依テ本使ハ館員家族陸海軍武官同補佐官僕婢合計二十名ヲ隨ヘ同特別車ニ搭乗前記刻限ニ巴里ヲ出發致候大使館移転ニ付テハ先帝皇太后兩陛下御真影捧持電信符号及重要書類一部

携帶(機密書類一部焼去)翌三日午刻當「ボルドー」市ニ安着致候巴里ニ於ケル帝國ノ利益及臣民保護ハ御來訓ノ通同地残留ノ米國大使ニ依託スルコトトシ大使館内ハ雇外國人「アルカンボー」氏ノ監護ニ附スルコト致候移転後ノ大使館ハ當地名譽領事「フォール」氏ノ斡旋ニ依リ一先ツ

21 Cours du Pavé des Chartreuxニ仮事務所ヲ設置スル

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚竝日本ノ利益保護依頼関係一件 (II) III-IV

領内ニ進撃シタル英仏同盟軍戰利アラス暫ラク國境線ニ於

テ守勢ヲ取ルノ曰ムヲ得サルニ至リタル趣同月二十四日夜公報發表セラレ候ニ付本大使ハ國境第一防禦線ノ撤退ヲ

期トシ巴里附近ノ本邦在留民ニ危險地域立退方再応論達ノ考ナリシ処獨逸軍ノ突擊ハ一瀉千里ノ勢ニテ進行セシモノト見ヘ同月三十日ニハ巴里ヲ去ル北東約十八里ノ「コンビエーム」ニ於テ同盟軍ト激戦中ナリトノ情報アリ同日午後一時頃獨逸ノ一飛行機巴里ノ空中ニ翱翔シテ爆弾二、三ヲ投シ且ツ獨逸國旗一旒ト開城勧告書トヲ小囊ニ納メ之ヲ地上ニ落下セシメタルノ事實アリ仏國政府ニ於テ何時他ニ移転スルヤモ測リ難キノ形勢ト為リタルヲ以テ右政府移転ノ場合ニ巴里ニ於ケル帝國ノ利益及臣民保護方ニ閑シ往電

第六七号ヲ以テ請訓ニ及ヒタル次第ニ有之翌三十一日午前九時在留民一同ヲ大使館ニ召集シテ形勢ノ切迫ヲ告ケ早急危險地域ヲ退去スヘキ旨ヲ懇諭致候處日仏銀行員町田弘病院勤務ノ医学博士山内保外兩參名ヲ除キ他ノ四十數名ハ悉皆退ト決シタルニ付右避難者中差当リ通貨ニ窮乏スル者ニ對シテハ倫敦行ハ仏貨二百法里昂行ハ同百七十五法ノ標準ヲ以テ旅費滞在費ヲ貸与スルコトシ其支給ヲ受ケタルモノ三十有余名ニ上リ候(開戦後本使第一回ノ訓諭ニ從

コトトシ越エテ數日漸ク事務ヲ弁スルニ立至候

次ニ當館在勤ヲ命セラレタル奥田一等書記官ハ九月四日倫敦發同五日單身著任ノ予定ナル趣八月三十一日夜在英井上大使ヨリ來電有之候ニ付翌九月一日出發延期可然旨同大使ニ電報シ置キ九月三日當地着ノ上直ニ交通開ヶ次第渡来スヘキ旨申遣候處本月十五日無事着任ノ運ト相成申候

大使館移転ニ要シタル諸雜費及在留本邦人救護立退費用ニ關シテハ会計信トシテ別ニ提出可致候ヘ共移転概況茲ニ及具報候也

III-IV 十月一日 在白國山中臨時代理大使(ヨリ) 加藤外務大臣宛(電報)

在「ブラッセル」木村書記官ノ書翰落手ノ件

第六二號

米國書記官ノ齋ラシタル九月二十三日附木村ノ書簡ニ依レハ米國ニ御依頼ノ電報ハ九月廿日落手セリ米國公使ト独逸司令官ト會見ノ結果木村及日本人ノ「ブラッセル」ニ留マルコト差支ナク且ツ安全ナルヘキ旨米國公使館員ハ同人ニ語レリ九月廿三日ヨリ公使館ニ米國旗ヲ掲ケタリ又支那公使ト往復ノ真相左ノ如シト云フ独逸侵入ノ際差当リテノ

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚竝日本ノ利益保護依頼関係一件 (II) III-IV

三三五

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚竝日本ノ利益保護依頼関係一件 (一) 三二五 三二六 三二七 三三六

ノ砲擊ヲ始メタリ其砲彈市ノ南廓ニ落チタリト云フ

方法トンテ平常親交アル支那公使ヲ訪ヒ若シ木村ニ於テ退去ヲ命セラレ又ハ俘虜トナル場合ハ支那公使ニ於テ独軍ニ対シ公使館及在留日本人ノ保護ヲ宣言シ本日ヨリ公使館

ニ支那国旗ヲ掲ケン事ヲ依頼シ国旗ヲ借り置キタリ但シ幸

ニ斯ノ如キ場合ナク右実行ニ至ラサリシモノナリ

三二五 十月七日 在白国山中臨時代理公使ヨリ

加藤外務大臣宛(電報)

白国政府ト共ニ「オスタンド」ヘ移行ノ件

号外

明七日愈々白国政府ト共ニ「オスタンド」ニ赴クヘシ領事館員ハ領事館竝居残希望在留民ノ保護ヲ米領事ニ託シ手続済ミ次第海牙ニ引揚タル筈

三二六 十月八日 在白国山中臨時代理公使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

「オスタンド」ニ到着ノ件

第六七号  
電信符号重要書類携帶森ト共ニ十月七日外交団特別汽船ニ  
テ当地ニ著セリ独軍七日午後九時ヨリ「アンヴェルス」市

三二八 十月十日 前在「アンヴェルス」横田  
領事ヨリ  
加藤外務大臣宛

在「アンヴェルス」日本領事館員引揚顛末報告  
ノ件

公信第一〇七号

獨逸軍「アンヴェルス」市街ニ砲火ヲ加ヘントスルノ危険切迫シタルニ依リ小官去ル十月七日時田書記生ト共ニ同市ヲ引揚ケ習八日海牙着ノ次第ハ既ニ電信ヲ以テ報告致シタル通ニ候右引揚顛末ニ關シ左ニ大要報告申進候

九月二十八日以来獨逸攻撃軍ハ愈々「アンヴェルス」市ノ略取ニ決意シタルモノノ如ク日夜猛烈ナル砲撃ヲ加ヘタルカ十月二日ニ至リテハ既ニ第一要塞線中二三ノ堡壘ヲ破壊シ進ンテ第二要塞線ニ迫ラントスルノ勢ヲ示シ候同日夜山中代理公使ハ小官ニ対シ白国政府ハ「オスタンド」ニ移転

セル趣ニ付外交団ハ翌朝十時同地ニ向フコトトナレリ日今ノ状態ハ危険切迫ト認メラルニ依リ領事館員モ速ニ引揚タル様致サレタシト申伝ヘラレ候然ルニ申迄モナク領事官ハ外交官ト事情ヲ異ニシ仮令政府カ移転セリトスルモ「アンヴェルス」市カ果シテ敵軍ノ占領ニ帰スルヤ否ヤモ未タ確カナラサル時機ニ於テ周章引揚ヲ実行致スコトハ地方

第三六〇号  
在蘭幣原公使ヨリ閣下宛(第四五号)

在「アンヴェルス」横田領事ヨリ(第五号)

十月六日夜「アンヴェルス」市長ハ住民ニ対シ市ノ一部攻撃ヲ受クルノ危険アルニ付成ルヘク急速安全ノ地ニ引移ルヘキ旨ヲ勧告シ英仏ノ領事館モ或ハ既ニ引揚ニ決シタル趣ナリシニ依リ本官ハ七日御電訓ノ趣旨ニ依リ居留民四名ニ對シ再応立退ヲ望ミタル處一二名ヲ除クノ外ハ依然居残リヲ希望セルニ付其ノ自由ニ委セタリ右居留民並領事館及官舎ノ保護ハ米國總領事ニ依頼シ紋章標札ヲ撤シ米國國旗ヲ掲ケ置ケリ「アンヴェルス」知事及市長ニ対シテモ臨時海牙ニ引揚ケノ旨ヲ通知シタル後御聖影重要書類ヲ携ヘ夕刻時田書記生ト共ニ同地ヲ發シ十月八日海牙ニ著セリ今後ノ処置ニ付テハ海牙ニ於テ貴訓ヲ俟ツ

三二七 十月九日 在英國井上大使ヨリ  
加藤外務大臣宛(電報)

在「アンヴェルス」日本領事館員海牙ニ引揚ノ件

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚竝日本ノ利益保護依頼関係一件 (二) 三三八

三三七

ル珈琲店及雜貨店ノ持主其娘及下女並北村ナル芸人座長併セテ四名居残リ居リタルノミニ有之候處北村ハ何時ニテモ容易ニ立去リ得ヘキ旨相答ヘタルモ畠中ハ財産監視家族ノ關係上寧ロ居残リ希望ノ由ニテ万一千砲火ヲ受クル場合ニテ

モ相當準備有之様相語リ候得共危急ノ場合領事館員モ何時立退クニ至ルヤモ測リ難キ今後ハ再ヒ注意ヲ促スノ機會ナキヤモ知レサルニ付其覺悟ニテ処決セソコトヲ申渡シ候

尚同日先任領事タル英國總領事ヲ訪問致シ万一千砲火カ市街ニ向ケ砲擊ヲ試ミ或ハ之ヲ占領セントスル危險アル場合ニハ駐在領事團ハ如何ニスル積ナルカラニ訊ネ候處同總領事ハ中立國領事官ノ態度如何ニ拘ハラス交戰國ノ領事官ハ形勢切迫ノ場合ニハ獨逸軍ノ占領ニ帰セサル以前速ニ引揚クル方可然ト思考スル旨相答ヘ仏露兩國ノ領事官モ同様ノ意見ナル由聞伝ヘ候ニ付本官モ亦同様ノ行動ヲ執ルヘキ旨申述ヘ相別レ候

其後二日ヲ経タルモ白国防禦軍ノ勢ハ甚々振ハサルモノノ如ク砲声ハ刻々市街ニ接近スル有様ナリシヲ以テ山中代理公使ヨリ請訓ノ次第モ有之未タ御回訓ニハ接セサリシモ急速引揚ノ場合ニ関シ予メ米國總領事ノ内諾ヲ求メ置ク方可然ト存シ五日同總領事ヲ訪問小官限リノ依頼トシテ我居

ハ閉鎖セラレ郵便電信局モ其ノ受付ヲ謝絶シ避難民ノ往復病傷兵ノ移転軍需品ノ輸送貯蔵食糧品ノ運搬等交互錯綜シテ市街ノ光景慘怛ヲ極ム小官等モ最早一刻猶予相成リ難キモノト認メ候ニ付御電訓ノ趣旨ニ依リ先ツ再応居留民ヲ招キ形勢ノ險惡ナルヲ説示シ即刻通路ノ存スル方面ニ向ツテ引揚ケンコトヲ勧告致候處北村ハ直ニ退去ニ決シタルモ畠中及其家族ハ穴庫籠城ノ覚悟準備アル由ニテ遂巡決セヌタ刻迄ニ立退ヲ領事館ニ通知セサレハ滯在ニ決シタルモノト認メラレ度旨ヲ告ケテ立去リ申候

次テ米國總領事ヲ訪ネ正式ニ小官引揚後ニ於ケル我領事館及官舍並居留民ノ保護ヲ依頼シ居留民三人ノ名簿並領事館及官舍表門ノ鍵ヲ手交シ可然後事ヲ託シテ告別致シ夫レヨリ「アンヴェルス」知事及市長ニ宛テ乍遺憾事情止ムヲ得ス一時領事館ヲ閉鎖シ館員と共に海牙ニ引揚クヘク不在中ハ領事館及居留民ノ保護ヲ米國總領事ニ委託セル旨ヲ通牒致置候

領事館及官舍ニ就テハ紋章標札ノ類ヲ撤シ米國國旗ヲ掲ケ書類ハ出来得ル丈ヶ之ヲ金庫内ニ藏メ器物ハ可成安全ノ場所ニ取片付ケ瓦斯燈電燈ノ通路ヲ絶チ出来得ル丈ヶノ注意ヲ加ヘ置候ヘ共建物存在ノ位置ニ顧ミ果シテ砲丸火災ヲ免レ得タルヤ否ヤ甚々心許ナク被存候領事館雇人ハ白耳義人雇書記「コルネリス」ヲ除クノ外十月分ノ給料ヲ与ヘ何レモ一応解雇致候同人ハ多年我領事館ニ雇ハレ信用スヘキ者ト相認メ候ニ付領事館表門ノ鍵ヲ託シ館員不在中事實上ノ監視注意ヲ為ス様命シ置候領事館及官舍ノ家賃ハ契約書通り既ニ十月一日第四期分ノ前払ヲ為シタルニ依リ此際ハ何等ノ手続ヲ執ラス其儘ト為シ置キ候

右ノ次第ニテ同日午後四時頃諸般ノ手續ヲ結了致候處市中混雜ヲ極メ交通機関殆ント杜絶シ到底荷物運搬ノ方法ナカリシニ依リ僅カニ御聖影、電信符号、一切ノ機密公信、大正三年一月以降ノ本省來往信、会計書類、契約書類、官印類ノミヲ二個ノ行李ニ収メ之ヲ携帶シテ時田書記生夫妻ト共ニ六時二十分避難民特別列車ニ搭シ和蘭國境ニ向ヒ多大ノ困難ヲ経テ翌八日朝海牙ニ到着致候

尚御参考迄ニ英仏露三国領事官ノ引揚ニ関シ米國總領事ヨリ及聞ヒタル儘附記致候

領事官名	引揚後ノ保護 引受人	引揚地	引揚時期
英國總領事	米國總領事倫敦	六日	夜
仏國總領事	西班牙國總領事海牙	七日	日
露國領事	西班牙國總領事オスタンド	六日夜又ハ	七日未明

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚並日本ノ利益保護依頼関係一件 (1) 三三九 三四〇 三三一 三四〇

又今朝当地新聞ノ報スル所ニ依レハ米國總領事ハ「ガン」

ニ同國副領事ハ海牙ニ臨時避難致シタル趣ニ有之候

右報告申進候 敬具

三三九 十月十二日 在白國山中臨時代理公使ヨリ

加藤外務大臣宛(電報)

白國政府仏國「ハーヴル」へ移転ニ付同行ノ件

第六八号

白國政府ハ目下ノ形勢ニ鑑ミ明日中ニ仏國 Havre 二移

転スルコトニ決セル旨今十二日外務省ヨリ通知アリタリ皇

帝ハ当地ニ停マラレ自ラ軍隊ヲ指揮セラルヘシ又別ニ聞ク

所ニ依レハ仏國ニ於ケル同盟軍ノ形勢佳良ニシテ獨ノ大軍

漸次白国内ニ退却スル模様アルニ付右ノ決定ヲ見タルモノ

ナリト云フ本官ハ森ト共ニ政府ニ同行スヘシ

三三〇 十月十四日 在白國山中臨時代理公使ヨリ

加藤外務大臣宛(電報)

白國政府ト共ニ「ハーヴル」ニ到着ノ件

三三一 十月二十日 在白國山中臨時代理公使ヨリ

加藤外務大臣宛(電報)

白國政府ト共ニ「ハーヴル」ニ留マル必要ノ有

無間合ニ對シ回電ノ件

第七〇号

貴電第三五号ニ関シ「アントワープ」以来政府ト行動ヲ共

ニシタル羅馬法王使節英仏露伊太利和蘭諸威希臘土耳古羅

馬尼ノ各公使中未タ当地ヲ引揚ケタルモノナク右等公使ニ

就キ夫レトナク内意ヲ採リタルニ皆當地ニ留マル決心ナル

モノノ如シ現在ノ状態ニ於テハ必シモ政府ト共ニ留マリ

居ル必要ナキガ如キモ此状態カ何時迄続クヘキヤハ御承知

ノ通ニ戰局ノ發展ニ拘ハルモノニシテ予知シ難ク又各國

公使カ居残ルニ本官ノミ引揚クルハ政府ニ對シ感情上面白

カラスト思考ス尚「アントワープ」へ移転ノ通知甚タ急ナ

リシ為辛ウジテ重要書類ヲ携帶シタルノミニシテ本官等居

所所属物等悉ク其儘ニ打捨テアルニ付此事モ御含置ヲ請

フ

三三一 十月十九日 在白國山中臨時代理公使宛(電報)

第六九号

十月十三日白國政府ト同行当地ニ著セリ仏白両國間ニ政

府及外交團ハ当地ニ於テ十分ノ Extraterritoriality ヲ有

スル協定アリト云フ乗船入港ノ際仏國官民ノ歓迎甚タ盛

ニ白國万歳ノ声埠頭ヲ動カシ極メテ悲壯ノ感動ヲ与ヘタ

リ

三三一 十月十九日 在白國山中臨時代理公使宛(電報)

白國政府ト共ニ「ハーヴル」ニ留マル必要ノ有

無ニ付問合ノ件

第三五号

白國政府貴地ニ移転後各国公使ノ内已ニ引揚タルモノナキ

ヤ此上何時迄モ同政府ト共ニ貴地ニ留マル必要ノ有無ニ有

スル貴官ノ御意見ト共ニ返電アリタシ

三三一 十二月二日 在米國珍田大使(電報)

在「プラッセル」木村書記官外三名ノ邦人ガ俘

虜トナレル旨ノ在白國米國公使發同國國務省宛

電報ノ件

第四四四号

往電第三五〇号十二月一日國務省ヨリ十一月二十一日午後

三時「プラッセル」発在白米國公使來電左ノ通移牒シ越セ

リ

九月二十九日電報報告ノ通独逸軍憲ハ確的ナル保障ヲ与ヘ

タルニ拘ラス木村書記官外三名ノ「プラッセル」在留日本

人ヲ本日俘虜トナスヘキ旨本官ニ通告シ来レリ

右日本政府ニ通報方木村ヨリ依頼申出タリ

三三一 十二月二日 在米國珍田大使(電報)

在「プラッセル」木村書記官等ノ解放方米國政

府ニ交渉ノ件

第四四五号

往電第四四四号ニ關シ解放立退ノ義取計方交渉中

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚並日本ノ利益保護依頼関係一件 (1) 三三一 三四三 三三四 三四一

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚並日本ノ利益保護依頼関係一件 (二) 三三五 三三六 三四一

三三五 十二月二日 加藤外務大臣(ヨリ) 在米國珍田大使宛(電報)

獨國軍憲ノ木村書記官等拘禁ハ不法ナル件

第三三二号

貴電四四四号並ニ四四五号ニ關シ在蘭公使ヨリモ前電五四号ノ通り電報ニ接セリ木村等ハ最初立退ノ機會ヲ失ヒ爾來平穩ニ「ブルッセル」ニ殘留セルモノニシテ殊ニ独逸官憲ハ貴電三五〇号末段ノ如キ保証ヲ与ヘタルニ不拘今回是等帝國臣民ヲ拘禁スルニ至リタルハ甚了解ニ苦シム処ナルノミナラス國家ノ高官ニ非サル者ヲ謂ハレナク俘虜ト為スカ如キハ國際法ニ反スルモノト思考ス為念

三三六 十二月三日 在白國山中臨時代理公使(ヨリ)

加藤外務大臣宛

在白國木村書記官「ブルッセル」殘留ノ理由回

報ノ件

人公第四八号

(大正四年一月六日接受)

大正三年十二月三日

木村書記官「ブルッセル」ニ殘留ノ理由委曲報告可致旨去ル十月十二日附人送第六七号貴信ヲ以テ御訓達ノ趣敬承同

又獨軍「リエージ」市占領以後ハ白國政府ニ於テ絶対ニ戰

況フ秘シ往電第三三号ニ述ヘタル如ク日日新聞紙上ニ顯ハル情報常ニ簡單ニ白軍ノ形勢佳良ナルラ報スルノミニテ他ヲ語ラス外務當局者ニ質シタルコトアルモ右以外探聞致シ難ク一方「タイムス」所載軍事通信員ノ觀察ノ如キモ独軍カ「ミョーツ」河ニ沿ヒテ仮境ニ進撃スヘキ傾向ヲ報スル等アリテ其當時本官等ハ「ブルッセル」ノ運命ニ關シテ

五号ヲ以テ此儀御承認アリタル義ニ有之候

來余儀ナク武府ニ止マリ十一月中旬漸ク当「ハーヴル」ニ

引揚ヶ來リタル実例モアリ且ツ目下當地ニ在ル各國公使孰

レモ長逗留ノ準備ヲ有セサル事實ニ徵スルモ當時武府ノ危

機ニ迫リ居ル実情ガ絶対秘密ニ附セラレ何人モ窺知シ難カ

リシコトヲ証スルモノニ有之候

ハ左程悲觀シ居ラス隨ソテ政府ノ「アンヴェルス」移転ノ如キモ其日ノ新聞所報ノ通り単ニ万一一ノ警戒手段ニ過キサ

ルヘシト思惟シタルハ事実ニ有之万一千獨軍武府ニ侵入シ木

村書記官ノ退去スル場合ニ關シ其當時予メ同書記官ト打合

セ置キタル如キハ全ク万々一ノ場合ヲ慮リタルコトニテ

殆ト実現ヲ期セサリシ程ノモノニ有之候

當時右ノ如ク思惟シタルハ敢テ本官等ノミナラス現ニ葡萄

牙公使ノ如キハ八月十八日他ノ外交團員ト同様「アンヴェ

ルス」ニ出向キタルモ所用アリテ翌日「先帰館シ安府ニ帰

来セントスル日獨軍武府ニ入り直ニ交通ヲ遮断シタル為爾

來余儀ナク武府ニ止マリ十一月中旬漸ク当「ハーヴル」ニ

引揚ヶ來リタル実例モアリ且ツ目下當地ニ在ル各國公使孰

レモ長逗留ノ準備ヲ有セサル事實ニ徵スルモ當時武府ノ危

機ニ迫リ居ル実情ガ絶対秘密ニ附セラレ何人モ窺知シ難カ

リシコトヲ証スルモノニ有之候

右ノ次第二テ本官等ハ武府カ政府移転後三日ニシテ獨軍ノ

手中ニ帰スヘキヲ予期セス且ツ當時日本カ未タ中立國タリ

シニ鑑ミ又最後通牒ノ猶予期限終了マテニハ別段ノ御訓令

アルヘキヲ期待シ差当リ前記往電第二七号通リノ処置ニ出

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚並日本ノ利益保護依頼関係一件 (二) 三三七

三四三

書記官「ブルッセル」ニ殘留ノ次第ハ文書什器ノ保管カ其ノ理由ノ一ナルニハ相違無之候モ元来八月六日ノ外交團會議ハ單ニ白國政府ト接觸ヲ保ツ為館長若クハ館員ノ内公使館ヲ代表シテ「アンヴェルス」ニ出向スヘキヲ決シ別段ノ事情ナキ限り書記官ヲ武府ニ止メ各公使ハ「アンヴェルス」ニ赴クヘシ定メタルモノニシテ各公使館其モノノ引揚ヲ議決シタルニハ無之即チ愈々右決議實行ノ際中立國公使館ニテハ公使若クハ館員武府ニ殘留シ交戰國タル英國ノ如キモ現ニ二等書記官留守致シ居候決議右ノ如クナルト又文書什器等ノ保管ニ関スル任務等モアリ旁々以テ館員一同協議ノ結果他公使館ノ振合ニ從ヒ木村書記官殘留スルコトニ決シ不取敢往電第二七号ノ通り上申致シタル處貴電第二五号ヲ以テ此儀御承認アリタル義ニ有之候

又獨軍「リエージ」市占領以後ハ白國政府ニ於テ絶対ニ戰況ヲ秘シ往電第三三号ニ述ヘタル如ク日日新聞紙上ニ顯ハル情報常ニ簡單ニ白軍ノ形勢佳良ナルラ報スルノミニテ

他ヲ語ラス外務當局者ニ質シタルコトアルモ右以外探聞致シ難ク一方「タイムス」所載軍事通信員ノ觀察ノ如キモ独軍カ「ミョーツ」河ニ沿ヒテ仮境ニ進撃スヘキ傾向ヲ報スル等アリテ其當時本官等ハ「ブルッセル」ノ運命ニ關シテ

在「ブルッセル」木村書記官ノ動靜ニ關スル在

同地米國公使報告ノ件

第五〇三号

在「ブルッセル」木村書記官ノ動靜ニ關シ十一月二十九日

附ニテ同地米國公使ヨリ同官ハ捕虜トナリ陸軍學校内ニ拘

禁セラレ居ルカ校庭ニ面シテ窓ヲ有スル一室ヲ与ヘラレ所

持品ノ携帶ヲ許サレ且ツ一日二回二時間宛校庭内ニ於テ運動ヲ許サレ居リ同公使訪問ノ節同官ハ健全ニシテ元氣ノ体

ニ見受ケラレ独逸將校ヨリ好遇セラレ居ルカ如ク認メラレ

タル趣報告アリタル旨當地米國大使ヨリ通牒アリタリ

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚並日本ノ利益保護依頼關係一件 (一) 三三八 三三九

三四四

三三八 十二月十四日 加藤外務大臣<sup>(ヨリ)</sup> 在米國珍田大使宛 (電報)

在白国木村書記官へ必要ノ金額貸与ヲ米國政府

ヘ依頼方電訓ノ件

第三四九号

貴電第四四五号ニ閔シ木村以下本邦人解放方ニ就テハ貴官ニ於テ折角交渉中ノ處先般幣原公使宛木村ノ書面ニ依レハ同官ハ本月末迄生活ヲ支フルニ足ル資金ヲ有スル由ニ付右缺乏ノ場合ニハ貴電第三二一号末段ノ通り在白米國公使ニ於テ立替吳ルルコトト信スルモ尚此際為念同公使ニ於テ木村ノ都合ヲ問合セ場合ニ依リ必要ノ金額貸与方同公使へ訓令アリタ旨米國政府へ御依頼アリタゾ

三三九 十二月十四日 加藤外務大臣<sup>(ヨリ)</sup> 岡田陸軍大臣宛

獨國軍憲木村書記官拘禁報復トシテ前横浜駐在人機密送第二〇八号

前横浜駐在獨逸國總領事「フリツツ・チール」ハ日獨國交斷絕ト共ニ本邦ヲ引揚ケ米國へ赴キタル處其後本國政府ヨリ更ニ「マニラ」へ前往ノ命令ニ接シタル趣ヲ以テ赴任ノ

途次本邦諸港ヲ經由スル為 Safe-Conduct ヲ付与セラレ度旨本年十月中旬米國政府ヲ通シテ申出候得共仮令通過ニセヨ同人ヲシテ帝國版圖内ニ足ヲ入レシムルコトハ我ニ於テ認諾ヲ表シ難キ處ナルヲ以テ右申出ハ之ヲ拒絶致候然ルニ本国人 Wharby ナル者有之或ハ前記「チール」ノ変名セルモノニ非サルヤノ疑アル旨在「シャトル」高橋領事ヨリ來電有之若シ果シテ「チール」ニシテ「マニラ」前往ヲ実行スル為秘カニ本邦ヲ通過セントスルモノナルニ於テハ甚面白カラサル次第ニ付先般獨逸官憲ガ白耳義國「ブリュッセル」ニ殘留セル同國在勤木村公使館三等書記官外三名ノ本邦人ヲ俘虜トシテ拘禁セル不法ノ措置ニ出タルニ顧ミニ対スル報復手段トシテ「チール」ニシテ果シテ丹波丸ニ乗船ノ場合ニハ同人ヲ抑留シ俘虜ニ準シテ取扱フコトニ致度就テハ前記丹波丸横浜着ノ節同人ノ在否確メ方並ニ之憲ヘ訓令方申送置候ニ付右取押後ニ於ケル收容方ニ就テハ貴省ニ於テ可然御配慮相煩度尚本件ニ閔シテハ予メ内務省トモ相當御打合置相成様致度此段及照会候也

三四〇 十二月十四日 加藤外務大臣宛 (電報)

木村書記官解放セラレ海牙へ到着ノ件

第五〇六号

幣原公使ヨリ (第五六号)

木村ヨリ

十二月十二日当地ニ著ス同日朝獨國民政部外交主任抑留場ニ來リ日獨政府交渉ノ結果小官ヲ解放スルコトトナリタルカ即刻白耳義ヲ去ルヘキ旨宣告シ且ソ蘭國ニ赴クタメ在白蘭國公使館自動車ニ便乗スル様取計ヒタリトノコトニテ在留民保護公使館後始末ニ付処置ヲナスノ時間ヲ与ヘラレス其ノ儘「ブラッセルズ」ヲ出発シタリ但シ國旗竿ハ雇外国人ヲシテ保管セシメ殘留重要書類ハ米國公使ニ寄託セリ尚小官ハ「ハーヴル」(Havre)ニ赴ク積リナルカ今後ノ処置ニ付御電訓ヲ待ツ

人機密合送第三〇号  
前横浜駐在獨逸國總領事「フリツツ・チール」抑留方ノ件ニ閔シ昨十四日附人機密送第二〇八号(陸)ヲ以テ及御照會置候次第有之候處今十五日接受ノ在蘭幣原公使來電ニ依レハ木村書記官ハ本月十二日ヲ以テ解放セラレ和蘭海牙ニ到着セル趣ニ有之從ツテ獨逸政府ノ木村書記官拘禁ニ対スル報復手段トシテ前記「チール」ヲ抑留スルノ事由ハ自然消滅ニ帰シタル有様ニ有之候得共同書記官ト共ニ拘禁セラレタル他ノ本邦人等ノ保護方等ニ就テハ獨逸官憲ニ於テ同書記官ヲシテ後始末ニ付処置ヲ為スノ余裕ヲ与ヘシメサリシ趣ナルヲ以テ依然其安否モ詳カナラサル次第ニ有之候就テハ前記「チール」ハ木村書記官解放ニ拘ラス差向キ之ヲ抑留スルコトシ追而上述「ブリュッセル」拘禁中ノ本邦人ニ閔スル交渉ノ解決ヲ俟テ何分処分ノコトト致度候ニ付昨十四日及御照會置候手順ニ依リ可然御配慮相煩度此段重テ申進候也

三四一 十二月十五日 加藤外務大臣<sup>(ヨリ)</sup> 岡田陸軍大臣宛

在「ブラッセル」本邦人釈放ニ至ルマデ前横浜

註 右ト同文公信ハ松井外務次官ヨリ下岡内務次官宛ニテモ發送セラレタリ

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚並日本ノ利益保護依頼關係一件 (二) 三四〇 三四一

三四五

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚並日本ノ利益保護依頼関係一件 (一) 三四二 三四三 (三) 三四四 三四六

三四二 十二月十六日 加藤外務大臣(ヨリ) 在米國珍田大使宛(電報)

在白本邦人解放ニ至ル迄前横浜駐在獨國總領事

抑留ニ閑スル件

第三五〇号

貴電第四四五号ニ閑シ木村ハ本月十二日解放セラレ海牙ニ到着セルカ他ノ本邦人三名ニ就テハ独逸官憲ニ於テ木村ヲシテ何等ノ処置ヲ為スノ余裕ヲ与ヘシメサリン趣同人ヨリ電報ニ接セル處右等本邦人ノ消息ニ閑シ貴方へ何等情報達シ居ラサルヤ之カ解放方ニ就テハ引続キ御尽力中ノコトト存スルモ実ハ「ヒンツエ」ノ外「チール」ニ非スヤト疑ハルル人物丹波丸ニ乗船セル由ニ付本邦寄港ノ際之ヲ確カメ果シテ同人ナルニ於テハ追テ前記拘禁本邦人ニ閑スル解決ヲ見ル迄暫ク之ヲ抑留スルコトニ決定セリ御含迄

シ居ラサルヤ之カ解放方ニ就テハ引続キ御尽力中ノコトト存スルモ実ハ「ヒンツエ」ノ外「チール」ニ非スヤト疑ハルル人物丹波丸ニ乗船セル由ニ付本邦寄港ノ際之ヲ確カメ果シテ同人ナルニ於テハ追テ前記拘禁本邦人ニ閑スル解決ヲ見ル迄暫ク之ヲ抑留スルコトニ決定セリ御含迄

三 在青島本邦人ノ引揚

三四三 十二月十六日 在米國珍田大使(ヨリ) 加藤外務大臣宛(電報)

前横浜駐在獨國總領事「チール」ノ消息ニ閑スル件

三四四 八月十二日 在天津吉田總領事代理(ヨリ) 加藤外務大臣(ヨリ) 在天津吉田總領事代理宛(電報)

在青島本邦人引揚ハ任意トスル旨同地領事ヘ伝達アリ

達方電訓ノ件

第四六七号

三四五 八月十二日 在天津吉田總領事代理(ヨリ) 加藤外務大臣宛(電報)

在青島本邦主要商店ノ引揚ニ閑連シ時局ニ付問合ノ件

第七四号

往電第七二号ニ閑シ宗村ヨリ本官ニ對シ英文電報ヲ以テ左ノ通申越タリ

正金三井其ノ他二三商店ハ各急遽引揚ノ命ニ接セルカ事態爾ク急ナリヤ若シ果シテ然ラハ申迄モナク青島在港ノ日本汽船ヲ引止メ置クヲ要スヘキニ付至急回答ヲ乞フ

三四六 八月十五日 在天津吉田總領事代理(ヨリ) 加藤外務大臣宛(電報)

在青島本邦窮民ノ救濟ニ閑シ報告ノ件

第八六号

八月十四日夜宗村ヨリ左ノ通電報アリ

「諸業停止ノ結果トシテ本邦人約三十名ハ衣食ニ窮シ醜態ヲ暴露シ我声価ヲ害スルカ故ニ目下適當ノ方策ヲ執リツタルモ彼等ノ總テニ対シ長ク金銭上ノ扶助ヲ與フルハ不可能ナルニ付彼等ノ希望スルカ如ク其大部ヲ海路何レニカ(大連)ニ送還スル方可然ト思考ス委細郵報」

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚並日本ノ利益保護依頼関係一件 (三) 三四五 三四六

三四七

貴電第三五〇号ニ閑シ前在日本獨逸大使館書記官 Fuehr ヨリ本使宛紐育發私信中 Thiel ハ米國駐劄英國大使ヨリシテハ十月一杯限リ英國大使ヨリ通行券發給差支ナキ旨本國政府ノ訓令アリシヲ以テ Thiel ニハ曩ニ歐洲行通行券ヲ發給シタル旨ヲ答ヘタリ御参考迄

三四二 十二月十六日 加藤外務大臣(ヨリ) 在米國珍田大使宛(電報)

在白本邦人解放ニ至ル迄前横浜駐在獨國總領事

抑留ニ閑スル件

第三五〇号

貴電第四四五号ニ閑シ木村ハ本月十二日解放セラレ海牙ニ到着セルカ他ノ本邦人三名ニ就テハ独逸官憲ニ於テ木村ヲシテ何等ノ処置ヲ為スノ余裕ヲ与ヘシメサリン趣同人ヨリ電報ニ接セル處右等本邦人ノ消息ニ閑シ貴方へ何等情報達シ居ラサルヤ之カ解放方ニ就テハ引続キ御尽力中ノコトト存スルモ実ハ「ヒンツエ」ノ外「チール」ニ非スヤト疑ハルル人物丹波丸ニ乗船セル由ニ付本邦寄港ノ際之ヲ確カメ果シテ同人ナルニ於テハ追テ前記拘禁本邦人ニ閑スル解決ヲ見ル迄暫ク之ヲ抑留スルコトニ決定セリ御含迄

三 在青島本邦人ノ引揚

三四三 十二月十六日 在米國珍田大使(ヨリ) 加藤外務大臣宛(電報)

前横浜駐在獨國總領事「チール」ノ消息ニ閑スル件

三四四 八月十二日 在天津吉田總領事代理(ヨリ) 加藤外務大臣(ヨリ) 在天津吉田總領事代理宛(電報)

在青島本邦人引揚ハ任意トスル旨同地領事ヘ伝達アリ

達方電訓ノ件

第四六七号

三四五 八月十二日 在天津吉田總領事代理(ヨリ) 加藤外務大臣宛(電報)

在青島本邦主要商店ノ引揚ニ閑連シ時局ニ付問合ノ件

第七四号

往電第七二号ニ閑シ宗村ヨリ本官ニ對シ英文電報ヲ以テ左ノ通申越タリ

正金三井其ノ他二三商店ハ各急遽引揚ノ命ニ接セルカ事態爾ク急ナリヤ若シ果シテ然ラハ申迄モナク青島在港ノ日本汽船ヲ引止メ置クヲ要スヘキニ付至急回答ヲ乞フ

三四六 八月十五日 在天津吉田總領事代理(ヨリ) 加藤外務大臣宛(電報)

在青島本邦窮民ノ救濟ニ閑シ報告ノ件

第八六号

八月十四日夜宗村ヨリ左ノ通電報アリ

「諸業停止ノ結果トシテ本邦人約三十名ハ衣食ニ窮シ醜態ヲ暴露シ我声価ヲ害スルカ故ニ目下適當ノ方策ヲ執リツタルモ彼等ノ總テニ対シ長ク金銭上ノ扶助ヲ與フルハ不可能ナルニ付彼等ノ希望スルカ如ク其大部ヲ海路何レニカ(大連)ニ送還スル方可然ト思考ス委細郵報」

三 在外本邦公館及本邦人ノ引揚並日本ノ利益保護依頼関係一件 (三) 三四五 三四六

三四七